

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2191500012		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	中津川ケアハートガーデングループホームなかむらの郷		
所在地	岐阜県中津川市中津川3042-39		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	平成23年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=2191500012&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=2191500012&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成23年10月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体法人の組織的な研修体系があり スタッフの資質向上を目指し、全員参加型の研修や力量に合せた研修を行い、常にケアの向上を目指している。ケアマネジメント「センター方式」を活用する為に、母体法人からの講師と認知症介護研究・研修センターからの講師による認知所の基本と活用方法を学び、利用者本位のケアと個性性を重視したケアに取り組んでいる。地域の方々の訪問も多く、交流や地域貢献も行うなど関わりを大切にしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

全国に15事業所を抱える“三菱ライフサービス”が母体である。職員の研修体制やハード面のメンテナンス、災害対策などの危機管理および職場環境の整備等、法人と事業所が一体となって取り組んでいる。この事業所では職員全員がケアマネジメント『センター方式』を学んでおり、特にアセスメントから得られる情報や気づきを職員、家族、関係者が共有し、本人がその人らしく暮らし続けることを支えている。また地域とのつながりも年々深まっている。様々なボランティアの訪問や地元公民館で開催されるサロンへの参加、お祭りで使われる飾り物の作成依頼など、事業所も利用者も地域の一員として受け入れられ日常的に交流を重ねている。ゆったりとした流れの中、利用者、職員の穏やかな笑顔が印象に残るホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①「喜びや不安を分かち合う為に共に過ごすことを大切にします」 ②「チーム(利用者・家族・地域の方々・医師・スタッフ)で支援します」を理念とし、スタッフ全員が理念に添ったケアに取り組んでいる。	昨年、全職員でそれまでの理念を見直し、現状に合ったものに作り変え共有している。スタッフ会議やケアカンファレンスで理念を確認し、ケアの振り返りやプラン作成時には常に立ち戻っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会報や市便りなどの配布も受け、毎月、様々なボランティアの訪問もあり、地域の方々と日常的な交流がある。地域で開催されている健康サロンにも参加させていただいている。	地域の方が紙芝居や楽器演奏、お菓子作り、また畑仕事や芝生の手入れなど、ボランティアとして関わってもらうことも多い。近隣住民はホームや利用者について理解があり、地域の一員として受け入れてもらっている。	事業所はこれまでに培ってきたケアの専門性、実践力を活かし、地域住民の相談窓口になりたいと考えている。準備を進められ、事業所側からの発信を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア受け入れ時などに、GHとは・認知症の理解・予防について話が弾むこともあり、今後は介護相談なども受けれるようにしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催し、現状報告・地域内の情報収集・市職員との情報交換や意見交換を積極的に行い、サービスの向上に努めている。	外部評価について意義や内容を伝えるとともに、結果および評価で明らかになった課題を報告し、モニター役になってもらっている。また防災訓練に合わせて会議を開催し、災害対策に関して意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	成年後見制度の利用についての相談や介護相談員受け入れ・中津川市GH部会会議時の情報交換など定期的に行ったり、市主催による会議、講演会などに積極的に参加し情報交換を行っている。	市介護保険室発信による中津川グループホーム部会のメンバーであり、市役所で開かれる会議に毎回参加している。またホーム運営や制度について窓口に出向き相談することも多く、顔見知りの関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が身体拘束ゼロの取り組みを理解し施錠や言葉による制止もしないケアに取り組んでいる。	施錠を含め身体拘束は行っていない。職員が利用者から目を離さず見守るという姿勢を崩さず、鍵をかけなくてすむケアの実践に取り組んでいる。また家族に対しても鍵をかけることの弊害を説明し、ホームの取り組みを示し理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員が研修を受け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について情報を入手し、利用している方もあり、今後も常に必要性の見極めを行い活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には事前説明や意見交換を十分に行い、納得された上で契約を行っている。又改定時にも、その都度説明を行い理解していただくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時など要望を聞いたり、家族アンケートも実施し、家族の意見や要望をスタッフ会議で話し合い、その結果を家族や運営推進会議で報告している。	家族の訪問時に利用者の状態を伝えるとともに本人の様子を見てもらい、意見や要望を聞いている。また管理者や法人担当者は、家族に気軽に話してもらえる環境作りを常に検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はスタッフ会議に参加し、スタッフとの意見交換に努めたり、スタッフからの意見・要望は月1回のシニア会議の場などで検討し、改善策を講じるように努めている。	職員に向け『改善提案書』が用意されており、出された意見はその内容によりスタッフ会議や法人で検討され、改善につながっている。テラスやトイレの柵などは、職員の声により実現されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの日々の取り組みや実績、自己研鑽などにより夫々に応じたベースアップや賞与を支給している。様々な資格取得に対しての奨励金制度やレク補助制度を設け、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の講師による研修(拠点研修・本社での集合研修)があり、学ぶ機会が多い。スタッフの実績や力量については、スキルマップを用いて、力量に応じた研修を行い、学ぶ機会を設けスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の全GHで部会を作り、情報交換やスタッフの合同研修を定期的に行い、ケア向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の段階から本人の意向や要望などを把握したり、入居後はスタッフ全員でアセスメントシートの24時間パターンシート・D-4シート等を記入して情報を共有し、安心して暮らして頂けるように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の家族とは事前面談時から相談しやすい雰囲気作りに努め、サービス利用についての説明も丁寧に行ったり、家族との信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望された時から事前面談を通して状況把握やサービスの必要性を見極め、他のサービス機関への情報提供を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げている「共に過ごすことを大切に……」をスタッフは常に意識し、本人の残存機能を活かし、一人ひとりのできることや得意なことを見つけ出し、他の入居者とも支えあえるように、スタッフは常に環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もチームケアの一員とし関わって頂ける様に常に働き掛けを行い、面会時には日々の生活の様子などを伝え、信頼関係作り努め、外出や面会の機会を増やしていただくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアの中に知り合いの方がおり、話し相になったり、地域の情報も得られることがある。馴染みの理美容院・歯科医院なども利用できるように支援したり、友人や親戚の方にも面会の機会を増やしていただくように働きかけている。	入居前のアセスメントを『センター方式』で詳細にとり、入居後知り得た情報も追加し全職員で共有している。家族に協力をお願いすることもあり、利用者が大切してきたことを失くさないよう共に支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに支えあえるように環境作りを行ったり、孤立しないような気配りをスタッフ全員で行っている。トラブル発生時も早期解決を図れるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も家族と手紙などで情報交換を行うなどの交流を行なっているが、全員の方にはできていない。(この1年間はサービス終了者はいない)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での会話からや、思いを汲み取り、スタッフ全員で共有(シートに記録)し個別性を大切にしたケアに取り組んでいる。	利用者の何気ない一言やつぶやきを大切に、その奥にある思いや希望を職員で検討している。また会話のない方には、その方の仕草や表情、行動に関心をはらい、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時から情報を得、センタ方式シートに詳しく記入し、全員で共有しケアプランにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から把握・記録しスタッフ全員で共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントにはセンター方式を利用し、スタッフ全員で研修を受け、本人本位のケアを目指している。本人・家族の意向を活かす為の情報収集と共有を行い、ケアカンファレンスを行い、ケアプランを作成し、実行している。	ケアカンファレンス前に介護計画を見直す利用者について検討課題を全職員に提示し、会議には意見を持って参加する体制をとっている。必要に応じて、往診に訪れる協力医の意見も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、センター方式のD-4シートを用い、其の時の気分と様子・原因と背景・気づき・アイデアなどを記入し、ケアプランの見直しに用いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や其の時の状況に応じて、通院介助・身の回り品の買物・特別な外出支援などを行っている。母体法人からも諸行事の応援や外出支援なども受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やボランティア来所時などに情報を頂き、今年度は地域で開催される秋祭りの花飾り作りを依頼され、ご利益を期待しながら楽しく作ることもできました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、かかりつけ医を継続する方と、GHの協力医に変更される方がある。協力医は2週間ごとに往診があり、全員の方を診られ、24時間体制で相談や緊急対応を受けられるようになっている。	利用者、家族の希望に添った対応としている。協力医以外の受診は家族にお願いし、困難な場合は規定により支援している。協力医による2週間ごとの往診、緊急時および24時間体制があり、安心した対応がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置となっており、入居者の情報共有を行い、健康管理やスタッフへのアドバイス・スタッフからの相談・対応などの支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、主治医からの依頼と情報提供がされており、GHからも情報を提供し、常に病院関係者との信頼関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「GHでの看取り」についての研修も受け、終末期について考える機会も設け、対応指針マニュアルも作成している。 家族とも、段階に応じて話し合う機会を作り、家族の意向も聞きながら、GHとしての支援体制の説明もを行っている。	契約時に、重度化対応指針について説明し同意を得ている。これまで看取りの経験はないが、ターミナルに至る過程で本人、家族、職員、医療関係者がその都度話し合い、情報を共有しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が年1回救急救命講習を受け、緊急時に対応できるように訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練を全スタッフがを行い、年1回は消防署の職員の立会いで総合防災訓練を行って助言や指導を受けている。地域の方々の協力を得て、非常食の試食会も行った。現在は夜間想定訓練を行っている。	消防署、運営推進メンバーの協力のもと、火元を想定し発見することから、通報、避難誘導に至る実施訓練を行っている。ホーム廊下にはヘルメット、居間には防災頭巾が常備され、災害対策に熱心に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重することを大切し、常にスタッフ間で話し合い、自分に置き換えて考え、誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。引継ぎ時の声や、排泄の声かけなどは他者に聞こえないよう常に配慮している。	誘導のタイミングや声かけ等、一人ひとりの持てる力を大切にしながら対応している。プライドを傷つけない接し方を心がけ、職員同士確認しあっている。便りに掲載する写真等も、本人、家族にその都度了解をいただいている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴の姿勢を基本とし、その人らしさを第一に考え、自己決定ができるような雰囲気作りをスタッフ全員が心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、思いを汲み取ったり、心をもめるケアを心掛け、一人ひとりのペースやその日の意向に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の習慣を大切に、入浴時の洗顔・鏡の前での整髪時にはせっけんやブラシの提供を行っている。介助の必要な方にも、起床時に洋服選びや整髪の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員の方ではないが、何らかの形で食事作りや後片付けに関わって頂いている。手作りおやつや五平餅・巻き寿司・稲荷寿司などを一緒に楽しみながら作る機会を設けている。	利用者同士で当番を決め、自前のエプロンを着け下準備や後片付け、おやつ作りなど、力を発揮できる様支援している。食後も手押し車にトレイをのせ自分の食器を台所へ運ばれ、自然な形で片付けに一役かっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量に注意を払い、食事形態も個々に合わせて提供している。残量確認や水分量の把握に努め、摂取量の少ない方へは栄養補助食品や好みの食べ物などの提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援を行っているが、自力で行われる方や歯磨きが理解できない方もあり、完全ではなく、口腔ケアに課題を抱えているため家族の協力で定期的な歯科受診によりフォローを受けている肩もある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立を目指すために、トイレを解り易くしたり、夜間はドアを開けておくなどの工夫を行ない自立を促している。一人ひとりのパターンも把握し次の時間を予測したり、行動から読み取り誘導を行っている。情報の共有と話し合いも常に行っている。	排泄パターンを把握し、体調と合わせ誘導している。パットを使用しているが日中は全員トイレでの排泄を基本とし、排泄の自立や習慣化に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品を献立やおやつに取り入れられたり、水分不足にならないように注意したり、運動を促すなど一人ひとりに合わせた便秘の解消に努めている。薬や浣腸によるコントロールも行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯はおおむね決まっているが、入浴時間内であれば、希望に添えるように支援している。拒否する方にはタッチケアを行うなど個々に合わせた支援を行っている。	週3回の入浴支援とし、夏場はシャワー浴、入浴出来ない日は清拭を行うなど、気持ちよく過ごしていただけるよう心がけている。また拒まれる時には、職員がタッチケアの研修を活かし支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ、必要な支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	セット時・持ち出し時・服薬時の確認を行うなど注意を払っている。状態の変化にも注意を払っている。薬の副作用については更に努力が必要。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや好きなことを行って頂ける様な支援を心掛けている。貼り絵・日記書き・献立書き・野菜の収穫・掃除・洗濯など夫々に得意なことを行って頂き、気分転換にもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外での日光浴や体操・お茶などは毎日の日課となつてきているが、重度化が進み外出の機会が少なくなっている為、家族の協力を得ながら、花見や花火見学・紅葉狩りなどに出かけられるように努めている。地域で毎月開催されているサロンへ参加できるような支援も行っている。	家族の協力もあり、交流会で花見に出かけたりコンビニに買い物に出かけるなど、思いに寄り添う様支援している。利用者の希望を聞き4～5名の方が地域公民館で開催されているサロン(カラオケ・絵手紙等)へ参加しており、地域の方と触れ合う機会となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としては預からず立替払いを行っているが、外出時には必要に応じてお金を所持して頂き買い物ができるように支援している。食品納入業者訪問時にお菓子などの買物支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分から電話をかけられ方は少なく、必要時だけのことが多い。手紙も書ける方が少なく、限られた方が年賀状を書かれる程度である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内や居室内の温度や湿度・換気には常に注意を払い、快適に過ごして頂けるように配慮している。季節感を感じていただけるように、入居者の皆さんで季節を感じる貼り絵など、生活リハビリも兼ねて行うなどの工夫も行なっている。	玄関には手洗い、うがいが出来る様洗面台を設置し、衛生面には特に配慮している。また居間や食堂はスペースも広く、利用者の作品が季節感をかもし出している。庭は手入れの行き届いた芝生の緑が気持ちを落ち着かせ、明るい穏やかな環境空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士がくつろげるようにソファを2箇所、屋外や玄関先にもベンチを配置し景色を投げられるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には馴染みの物が有効な事を話し、持込の依頼をしているが全員の方ではない。家族の写真や御主人の遺影・小物などがあり、宿泊もできるように布団などの準備もある。	ペットも各自介護用ペット、木製ペットなど使い慣れたものを持ちこみ、利用者の状態に合わせて設置している。昔思いを馳せた小物やご自分の作品を大切に飾り、思い出深い温かい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレは、解り易く表示したり、夜間はトイレ内の電気を点灯したままで混乱を招かないようにし、自立支援を心掛けている。又状況により離床センサーを使用し転倒などがないように見守りも行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500012		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷		
所在地	岐阜県中津川市中津川3042-39		
自己評価作成日	平成23年9月28日	評価結果市町村受理日	平成23年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191500012&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191500012&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成23年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体法人の組織的な研修体系があり スタッフの資質向上を目指し、全員参加型の研修や力量に合わせた研修を行い、常にケアの向上を目指している。ケアマネジメント「センター方式」を活用する為に、母体法人からの講師と認知症介護研究・研修センターからの講師による認知所の基本と活用方法を学び、利用者本位のケアと個別性を重視したケアに取り組んでいる。地域の方々の訪問も多く、常に交流しながら、地域貢献も行うなど関わりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①「喜びや不安を分かち合う為に共に過ごすことを大切にします」 ②「チーム(利用者・家族・地域の方々・医師・スタッフ)で支援します」を理念とし、スタッフ全員が理念に添ったケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会報や市便りなどの配布も受け、毎月、様々なボランティアの訪問もあり、散歩をかねてのゴミ拾いを行うなど、地域の方々との日常的な交流がある。地域で開催されている健康サロンにも参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア受け入れ時などに、GHとは・認知症の理解をして頂く機会を設けており、予防について話が弾んだりし、今後は介護相談なども受けれるようにしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催し、現状報告・地域内の情報収集・市職員との情報交換や意見交換を積極的に行い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	成年後見制度の利用についての相談や介護相談員受け入れ・中津川市GH部会会議時の情報交換などを定期的に行ったり、市主催による会議、講演会などに積極的に参加し情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時研修でスタッフ全員が身体拘束禁止の研修を受け、身体拘束ゼロを理解し、施錠や言葉による制止もしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開設時研修で高齢者虐待防止について学び防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度について情報を入手し、利用している方もあり、今後も常に必要性の見極めを行い活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には事前説明や意見交換を十分に行い、納得された上で契約を行っている。又、改定時にも、その都度説明を行い理解していただくように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時など要望を聞いたり、家族アンケートも実施し、家族の意見や要望をスタッフ会議で話し合い、その結果を家族や運営推進会議で報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はスタッフ会議に参加し、スタッフとの意見交換に努めたり、スタッフからの意見・要望は月1回のシニア会議の場などで検討し、改善策を講じるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの日々の取り組みや実績、自己研鑽などにより夫々に応じたベースアップや賞与を支給する制度があり、様々な資格取得に対する奨励金制度やレク補助制度を設け、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の講師による研修(拠点研修・本社での集合研修)があり、学ぶ機会が多い。スタッフの実績や力量については、スキルマップを用いて、力量に応じた研修を行い、学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の全GHで部会を作り、情報交換やスタッフの合同研修を定期的に行い、ケア向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の段階から本人の意向や要望などを把握したり、願いや思いを汲み取り、日々の生活からも困りごとなども見つけ出し、安心して暮らして頂けるように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の家族とは事前面談時から相談しやすい雰囲気作りに努め、サービス利用についての説明も丁寧に行ったり、家族との信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望された時から事前面談を通して状況把握やサービスの必要性を見極め、他のサービス機関への情報提供を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に掲げている「共に過ごすことを大切に……」をスタッフは常に意識し、本人の残存機能を活かし、一人ひとりのできることや得意なことを見つけ出し、他の入居者とも支えあえるように、スタッフは常に環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もチームケアの一員として関わって頂ける様に常に働き掛けを行い、面会時には日々の生活の様子などを伝え、信頼関係作り努め、外出や面会の機会を増やしていただくように働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係継続の為に、理美容院の利用を家族に依頼したり、本人が大切にしている人や場所等関係が途切れることのないよう支援に努めている。又、面会の機会も多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で当番を決られ、食事の支度を行ったり、部屋で楽しく過ごされるなど、微笑ましい光景も見られる。一人で過ごしたい方もあるが、スタッフはお互いに支え合える環境作りを行ったり、孤立しないような気配りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設時以降サービスを終了した方がないが、今後終了者はあった場合は、支援に努めたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での会話からや、思いを汲み取り、スタッフ全員で共有(シートに記録)し個別性を大切にケアに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時から情報を得、センタ方式シートに詳しく記入し、全員で共有しケアプランにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から把握・記録しスタッフ全員で共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントにはセンター方式を利用し、スタッフ全員で研修を受け、本人本位のケアを目指している。本人・家族の意向を活かす為の情報収集と共有を行い、ケアカンファレンスを行い、ケアプランを作成し、実行している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、センター方式のD-4シートを用い、其の時の気分と様子・原因と背景・気づき・アイデアなどを記入し、ケアプランの見直しに用いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や其の時の状況に応じて、通院介助・身の回り品の買物・特別な外出支援などを行っている。母体法人からも諸行事の応援や外出支援なども受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やボランティア来所時などに情報を頂き、今年度は地域で開催される秋祭りの花飾り作りを依頼され、ご利益を期待しながら楽しく作る機会もあった。地域で開催されている健康サロンへ毎月参加し、地域の方々との交流もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、かかりつけ医を継続する方と、GHの協力医に変更される方がいる。協力医は2週間ごとに往診があり、全員の方を診られ、24時間体制で相談や緊急対応を受けられるようになっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置となっており、入居者の情報共有を行い、健康管理やスタッフへのアドバイス・スタッフからの相談・対応などの支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、主治医からの依頼と情報提供がされており、GHからも情報を提供し、常に病院関係者との信頼関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「GHでの看取り」についての研修も受け、終末期について考える機会も設け、対応指針マニュアルも作成している。 家族とも、段階に応じて話し合う機会を作り、家族の意向も聞きながら、GHとしての支援体制の説明も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が年1回救急救命講習を受け、緊急時に対応できるように訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練を全スタッフがを行い、年1回は消防署の職員の立会いで総合防災訓練を行って助言や指導を受けている。地域の方々の協力を得て、非常食の試食会も行った。現在は夜間想定訓練を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重することを大切し、常にスタッフ間で話し合い、自分に置き換えて考え、誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。引継ぎ時の声や、排泄の声かけなどは他者に聞こえないよう常に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴の姿勢を基本とし、その人らしさを第一に考え、自己決定ができるような雰囲気作りをスタッフ全員が心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、思いを汲み取ったり、心をみるケアを心掛け、一人ひとりのペースやその日の意向に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の習慣を大切に、好みの洋服など自分で選んで頂いたり、アドバイスをを行うなどの支援を行っている。介助の必要な方へも整髪や髭剃りの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はスタッフも一緒になって楽しみ、食事作りも毎日の日課となっており、交替で行われたり、自主的に参加され、積極的に行われている。特に盛り付けは得意な方が多く入居者主導で行われることが多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量に注意を払い、食事形態も個々に合わせて提供している。残量確認や水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	開設時に口腔ケアの研修を行い、口腔ケアの必要性を理解しており、毎食後口腔ケアの支援を行っている。自力で行われる方もあり能力に合せてた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援が必要な方には、個々の排泄パターンを把握したり、しぐさや行動から察して誘導している。自立支援に向けての話し合いも行い対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品を献立やおやつに取り入れたり、水分不足にならないように注意したり、運動を促すなど一人ひとりに合わせた便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯はおおむね決まっているが、入浴時間内であれば、希望に添えるように支援している。ご夫婦で一緒に入浴していただいたり、拒否する方にはタッチケアを行うなど個々に合わせた支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ、必要な支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	セット時・持ち出し時・服薬時の確認を行うなど注意を払っている。状態の変化にも注意を払っている。薬の副作用については更に努力が必要。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや好きなことを夫々行って頂いて頂ける様な支援を心掛けている。食事の支度や盛り付けなどは入居者同士で決められることもある。毎日屋外に出られる方もあり、散歩時に、自販機での買物を楽しまれることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日の日課として行っている。地域で開催されているサロンへの参加や花火大会への参加・全員での食事会・紅葉狩りなども計画している。又、家族と一緒に毎週外出され温泉に行かれたり、外食をされる方もあり今後も家族の協力を得ながら外出支援を行って行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としては預からず立替払いを行っているが、外出時には必要に応じてお金を所持して頂き買い物をして頂いたり、散歩時に飲み物などを買えるようにも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は少なく、必要なときだけが多い。習字が得意な方が多いが手紙を書かれる方もいない。家族・親戚の方の面会の機会も多く手紙でのやり取りは行なわれていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内や居室内の温度や湿度・換気には常に注意を払い、快適に過ごして頂けるように配慮している。季節を感じていただけるように、入居者の皆さんで季節のはり絵など、生活リハビリも兼ねて行うなど工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士がくつろげるようにソファを2箇所、屋外や玄関先にもベンチを配置し景色を眺められるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ち込んで頂くように働きかけを行い、使い慣れた筆筒やコタツ・テレビ・位牌など持ち込まれ、安心して暮らして頂けるように工夫しているが、全員の方ではなく、家族にお願いをしている。宿泊もできるように布団などの準備もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレは、解り易く表示したり、夜間はトイレ内の電気を点灯したままで混乱を招かないようにし自立支援に努めている。又状況により離床センサーを使用し転倒などがないように見守りも行っている。		